

第79回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】2021年4月27日（火）18：30-20：30

【場所】Web会議

【出席者】

委員：堂前委員（会長）、鳴海委員（職務代理）、根本委員、藤倉委員、佐藤委員、仁部委員、野村委員、宮下委員、大谷委員、木村委員、瀬田委員、渡邊委員
事務局：環境資源部 野田、環境政策課 宮坂、池澤、土志田、西、香山、藤森、
環境・自然共生課 藤原、大西、野地

傍聴：なし

【欠席者】

委員：なし

【資料】

資料1：策定スケジュール

資料2：望ましい環境像の市民投票結果について

資料3：第3次町田市環境マスタープラン 素案（案）

資料4：基本目標・施策の体系

資料5：意見シート

参考資料1：第10期町田市環境審議会委員名簿

【開会】

- 堂前会長から、出席者の確認を行った。

【報告】

策定スケジュールについて（資料1）

- 事務局から、資料1について説明を行った。

望ましい環境像の市民投票結果について（資料2）

- 事務局から、資料2について説明を行った。

【議題】

「第3次町田市環境マスタープラン」素案（案）について

(1) 成果指標について（資料3、資料4）

- 事務局から、資料3、資料4について説明を行った。

根本委員：基本目標1、④の気候変動に関する指標について、町田市の行政の努力とは全く関係なく、「真夏日1日当たりの熱中症による救急搬送者数」が増える可能性もあるが、指標として問題ないか。

事務局：「真夏日1日当たりの熱中症による緊急搬送者数」は、市の予防・啓発により減ら

すことができるかと想定している。また、「台風や豪雨などへの対策をしている市民の割合」は、市の方で日頃の警戒を怠らないような形の啓発を行うことでより備えをしていただくことで、こうした数字を上げることを想定している。

根本委員：基本目標3について、「資源化率」はどこまでを含めるのか。「総資源化率」にサーマルリサイクルは含まれるのか。

事務局：サーマルリサイクルは、「総資源化率」に含んでいる。

根本委員：基本目標1「市内の温室効果ガス排出量」は、「第2次町田市環境マスタープラン」（現行計画）では、全体からの按分での試算であり、指標としてはのっているが実際とは違う、ということだったと思うが、今後も変わらないのか。

事務局：今回の計画（第3次町田市環境マスタープラン）の指標は現行計画とは異なり、国の「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル」に基づき算出することとした。国や他自治体と比較するために必要なものである。市の取組がダイレクトに反映されるものではないが、地球温暖化対策を策定するうえで必要な指標ということで設定している。現行計画では、他自治体との比較ができないような独自の算定だったため、今回は国に合わせている。

根本委員：誰が算出するのか。

事務局：温室効果ガス排出量は、東京都が提供するツールによって町田市が算出する。

堂前会長：途中で指標を変更する可能性はあるのか。

事務局：適切でない指標だと判断できた場合には中間見直しも考えられるが、基本的に10年間の指標としている。

藤倉委員：計画の進行管理指標はDSR指標を意識すべきである。今回町田市が提示した指標について、主観的な環境の状態だけを対象にしているように思える。客観的なデータを取って見ていく必要があるのではないかと。D（Driving force）、S（State）、R（Response）それぞれの指標が揃っているか再度精査すべきである。また、アンケートは回答者の地域によって結果が変わりえるのではないかと。代表制のアンケートを指標として問題ないのか。なお、現在のアンケートの設問は十分とはいえないと思うが、今後変えられるのか。

事務局：客観的な指標については、今後も検討していく。委員の皆さまから意見があればいただきたいところである。アンケートについて、無作為抽出のため地域による偏りは統計的に問題ないと認識しているが、設問は精査する。

大谷委員：アンケートについて、無作為抽出とのことだが、地域は考慮して回答者を選出しているのか。また、成果指標の目標値の具体的な算出方法を記載してほしい。

事務局：アンケートについて、無作為抽出であるため地域を考慮した抽出はしていない。成果指標の目標値の算出方法は、資料編のような形での記載を考えている。

渡邊委員：現行計画では10年間の間にデータがなくなったため算出不可となった指標があるため、新計画では10年間変わらないデータを使用してほしい。指標の設定根拠が曖昧なため、明確にしてほしい。

事務局：たとえば、現行計画でのCO2については、算出方法が町田市独自であった。そう

いう意味で、国と共通の算出方法を使用することで、継続性のある指標になるのではと考えている。

鳴海委員：基本目標1①の指標「市内の温室効果ガス排出量」は、基本目標1の①②③に横断するものであり、すわりが悪い。

事務局：全体にかかる指標であるため①に置いたが、案があれば提示してほしい。

(2) 重点プロジェクトについて (資料3)

- 事務局から、資料3について説明を行った。

大谷委員：重点プロジェクトの基本的な視点の中にSDGsの視点があり素晴らしいが、まだまだ市民にSDGsの具体的な理念などは浸透していない。環境資源部としてSDGsの普及に関する取組を行う予定はあるか。

事務局：環境資源部として予定しているSDGsの普及に特化した取組はないが、今現在、日頃の事業でSDGsのロゴを使用したり、イベントで普及啓発をしたりしている。

大谷委員：「(仮称) まちだ未来づくりビジョン2040」でもSDGsのアイコンが使用されているが、実際、動いてもらおうとすると関連が見えにくい。

鳴海委員：重点プロジェクトに指定されることでどんな利点があるのか。重点プロジェクトになっていない施策とは何が異なるのか。また、重点プロジェクトに選ばれた事業は、定量的な目標を立てて10年後にどうなったのかというような進行管理がなされる予定なのか。

事務局：未来に向けてより強く推進していく事業として、他部署等と連携して取り組みたい事業を重点プロジェクトと選出した。進行管理はロードマップを作成し、その中で進捗点検をしていく。独自の指標は持たず、成果指標に最終的につながっていくという考え方で進捗管理をしていく。

藤倉委員：それぞれの重点プロジェクトの効果(環境・経済・社会)は記載されていること以外にも多くあるため、追記すること。たとえば、里山環境や遊休農地というのは、単に農地の維持保全というだけでなく、生物多様性の保全や水循環の保全であり、さらには温暖化の適応策にもなる。そうしたことをしっかりと記載するべきである。

(3) 施策について (資料3, 資料4)

事務局から、資料3、資料4について説明を行った。

大谷委員：推進体制はどのようにするのか。推進していく組織みたいなものを作るのか。

事務局：現行計画では、環境管理委員会で重点事業の所管課課長による進捗管理をしている。新計画でも環境管理委員会については、事業を推進していくための組織として位置づけるということで現段階では考えている。それぞれの施策は環境資源部だけで進められないため、現在策定を進めている庁内の他の計画と連携を取りな

がら前に進めていきたい。

木村委員：施策について説明していただいたが、量が膨大でまた奥が深い議題だと感じる。たとえば、基本目標ごと等、環境審議会以外で話合いの機会をつくれなからか。

事務局：次回6月の環境審議会は、本来、現行計画の進捗報告をする場と考えていたが、素案について議論する回とし、時間を増やした。また、今回も意見シートを用意したため記載のうへ提出いただきたいと考えている。

瀬田委員：木村委員と同様に今回だけの説明では不十分と感じる。もう少し掘り下げて話を聞く機会を設けてほしい。

渡邊委員：参加できる人だけでもいいので、座談会のような話合いの機会を設けてほしい。また、毎回委員の意見に対し事務局が回答する形だが、他の委員の意見も聞いてみたい。

事務局：先ほど回答した通り、議論の機会を可能な限り増やしている。環境審議会では町田市から案を提示し、その提示した案について委員の皆さまから意見を頂戴することで諮問もさせていただいた。また、審議会ではいただけなかったご意見については、意見シートを提出いただき、それらのご意見をもとに、引き続き、市で検討し、反映していく。

渡邊委員：ZEBは施策の前面に押し出しても良いのではないからか。

藤倉委員：施策に、事業的な内容が多く、市の政策、どのような形に持っていきたいのかという目標が見えない。たとえば、規制的な手法で持っていこうとしているのか、経済的な手法で持っていこうとしているのか。はたまた市民や事業者を応援することで持っていこうとしているのか。さらに、そのあたりの具体的な条例や補助金名は何かということの記載がない。お金をかけて支援することよりも社会の仕組みをつくることで支援につながる部分に重きを置いてほしい。

事務局：施策や取組のレベル感にはばらつきがあるため精査していく。政策に関しては、どこまで可能か分からないが、ご意見をふまえて精査する。

鳴海委員：各施策の語尾が「進めます」、「推進します」、「支援します」等ばらつきがあるが、どのような基準でこのような記載としたのか。また「検討します」を市の施策としていいのか。検討した結果どこを目指すのかまで記載したほうがいいのではないからか。

事務局：記載方法については、改めて検討させていただく。各施策の所管課の実施状況に対応した記載としているが、見直していく。

根本委員：市の主な取組の【●●課】は、その記載された課の責任において実施するという強制的なものがあるのか。それとも、連携しているという意味での記載なのか。

事務局：施策については所管課を記載している。連携、あるいは進行管理をして、環境マスタープランのそれぞれの指標や基本目標の達成に向けて取り組んでいくものである。

根本委員：記載されている施策・市の主な取組はどれくらい強制力があるのか。たとえば、まちづくりにおいて、緑と開発では対立する可能性もあるが、そういった場合

は、どれくらい強制力があるのか。

事務局：それぞれの所管課の取組について、整合を図りながら落とし込んでいる。実施にあたっては、各計画としてというよりも市として整合を図りながら取組を進めていく。

佐藤委員：資料3、素案（案）のP48に、事業者の取組しか記載がないが、ここに記載できる市民の取組はないのか。

事務局：基本目標3の基本テーマ②は、「資源化施設を整備する」ことに特化したテーマということで、ごみの減量のための市民の取組は基本テーマ①に入っており、市民の取組の記載をしていない。これについては、再度検討する。

議題全体について

木村委員：基本目標4のタイトルについて、環境配慮も含め「気持ちよく安全に住み続けられるまち」としたらいかがか。また施策の基本テーマ②も「美しく快適なまちづくりに努めます」としたらいかがか。

事務局：骨子として一度定めたものであるため、ご意見として頂戴する。

堂前会長：意見シートや本日の意見に対して、事務局はできるだけ丁寧に、何度も往復したやり取りをしてほしい。意見のキャッチボールによってより良い計画としたい。

- 事務局から、事務連絡を行った。

【閉会】

- 堂前会長から、閉会の挨拶。

以上